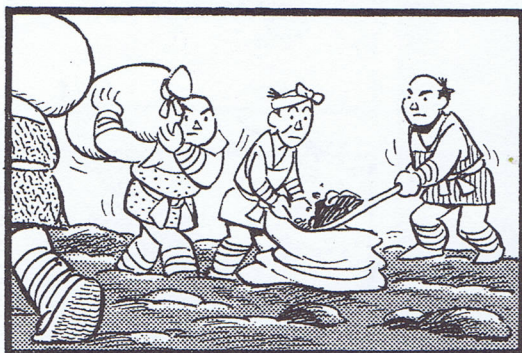
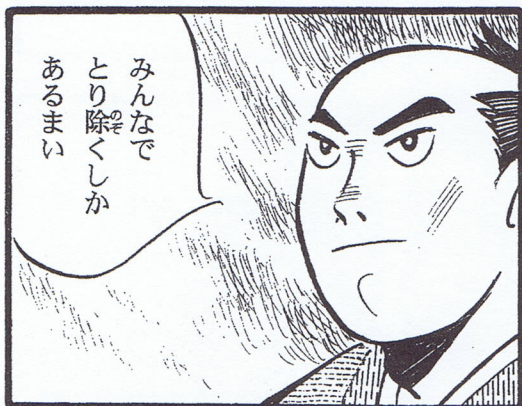
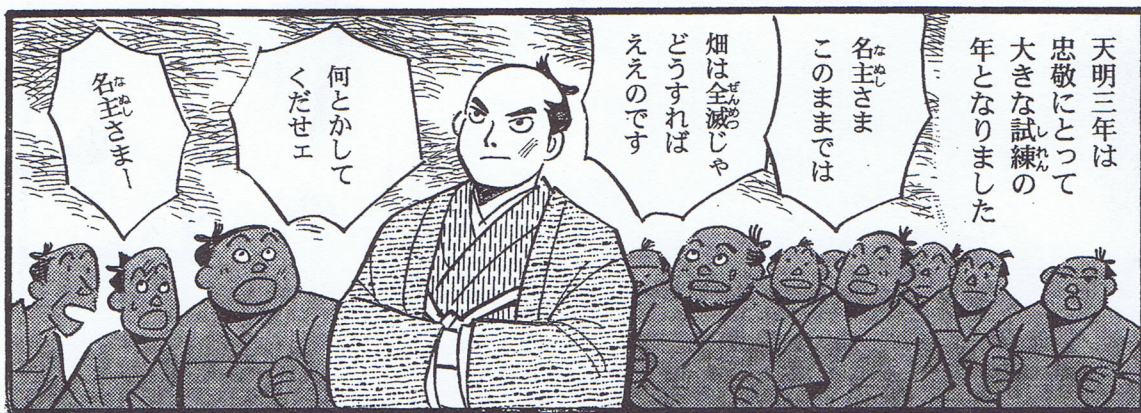






大変
だー

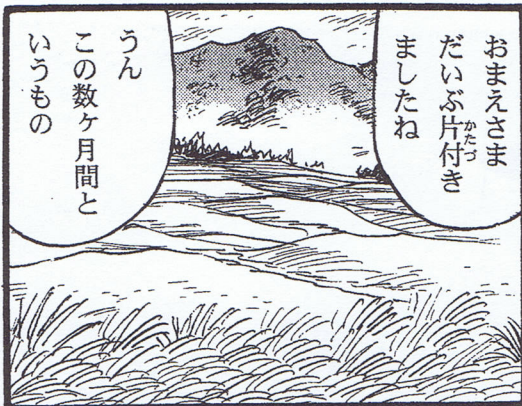


となり村の
堤が決壊
したぞー

…しかし
ひと安心も束の間
新たな難題が
襲ってききました

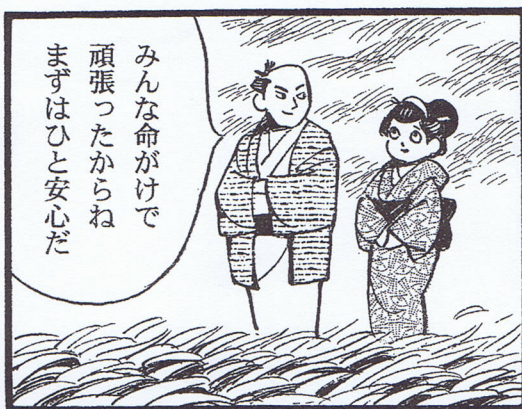


ゴ
ゴ
ゴ
ゴ

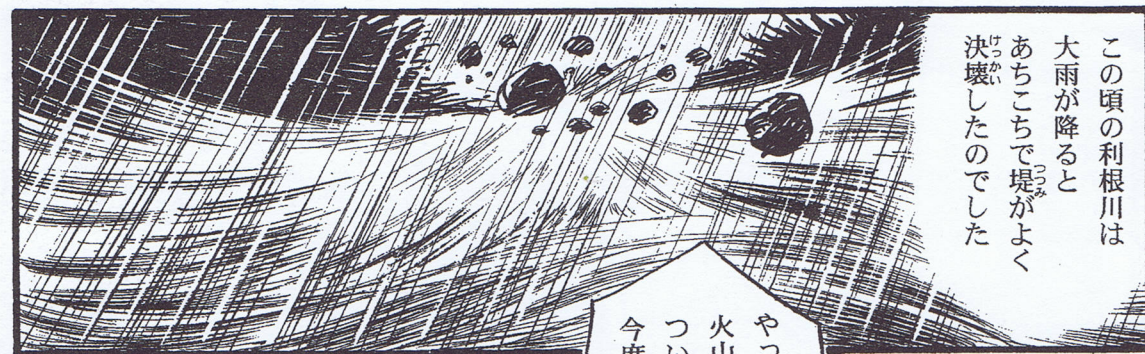


おまえさま
だいぶ片付き
ましたね

うん
この数ヶ月間と
いうもの

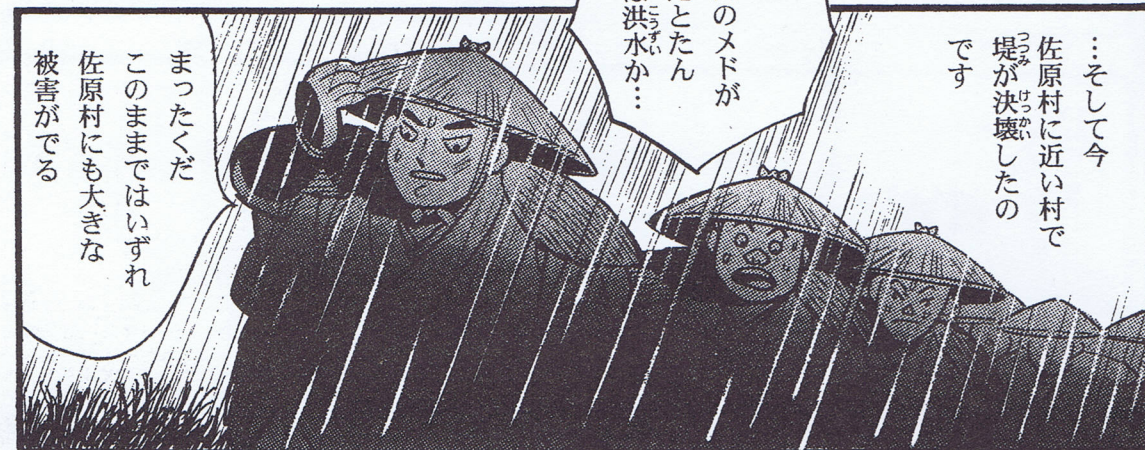


みんな命がけで
頑張ったからね
まずはひと安心だ



この頃の利根川は
大雨が降ると
あちこちで堤がよく
決壊したのでした

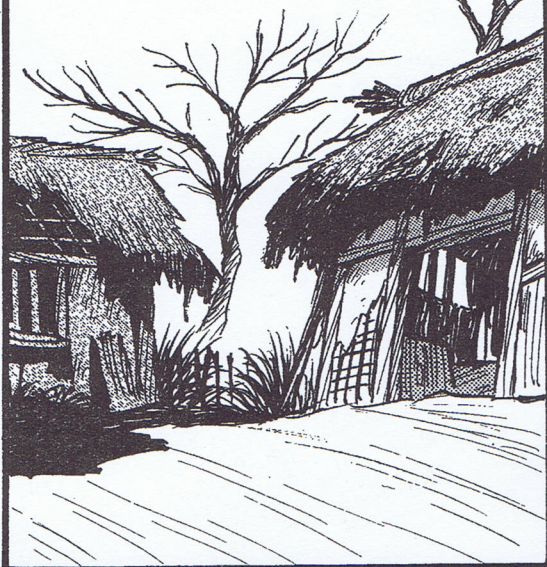
やっと
火山灰のメドが
ついたとたん
今度は洪水か…



…そして今
佐原村に近い村で
堤が決壊したの
です

まったくだ
このままではいずれ
佐原村にも大きな
被害がでる

天明三年の
大雨の被害は
佐原だけではなく
日本全体に広がり
日本中が大飢饉に
なりました



…町や村には
食べものはなく
各地で多くの
餓死者がでました

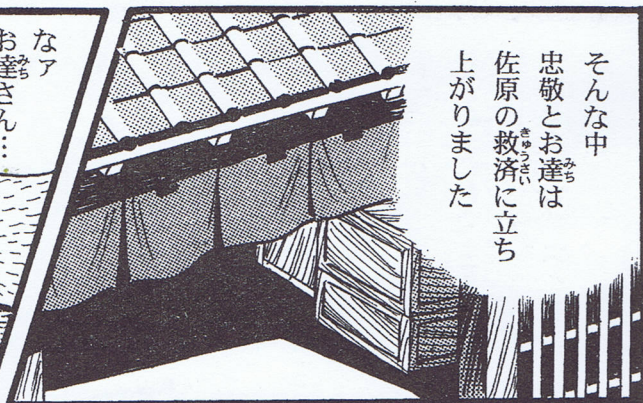


この飢饉をきつかけに
その後も天候不順が
つづき…

天明の飢饉とよばれて
天明七年頃までつづく
ことになります



そんな中
忠敬とお達は
佐原の救済に立ち
上がりました



なア
お達さん…

米で商売をする
伊能屋がこれまでに
なれたのは佐原の
お百姓衆のお陰です

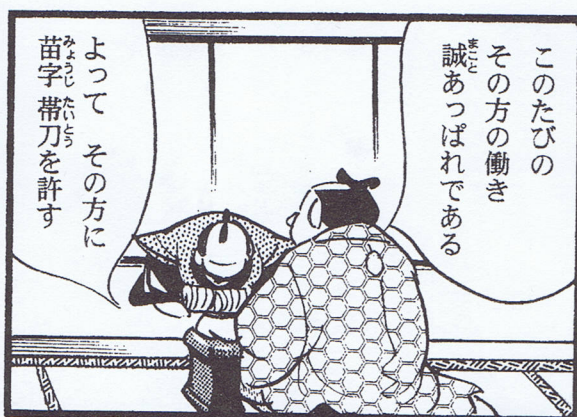
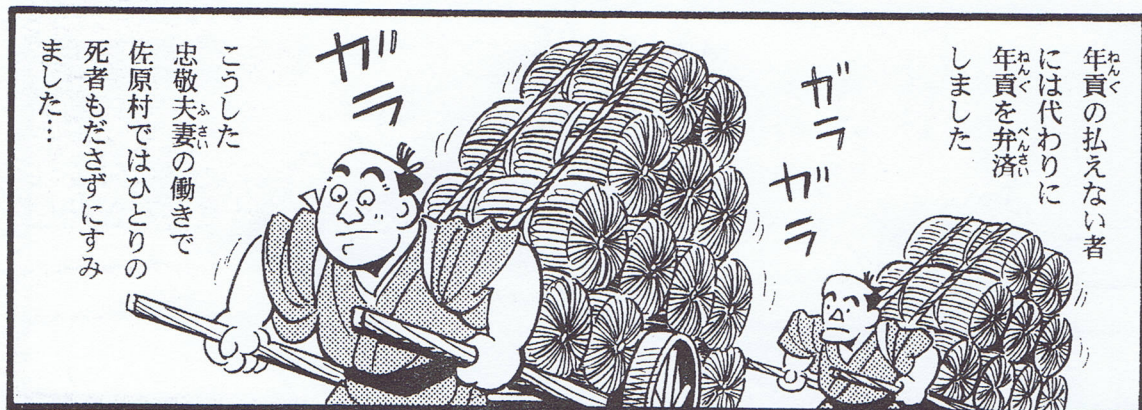
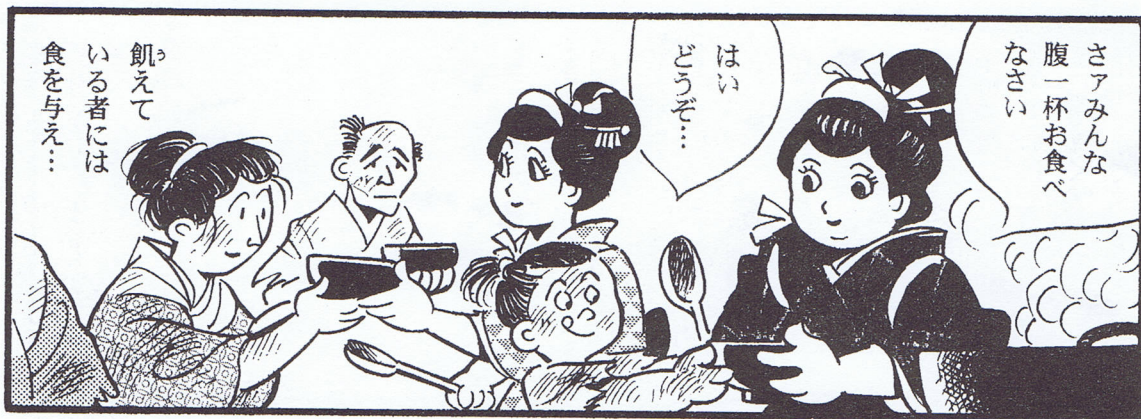


恩返しに
これまで蓄えたものを
すべてはきだしても
飢饉に苦しむ佐原を
救いたいのだよ…

わかりましたよ
おまえさま

わたくしもお手伝い
いたしましょう





天明三年十一月…

忠敬にとつて生涯最大の
試験が訪れていました

…お前さま

早いものですね

あなたがこの伊能屋に
きて二十数年

わたしが伊能屋に
婿入りしたのは
十七歳…

その時お達さんは
二十一歳…
お互い若かった

それから今日まで
伊能屋再興のために
ふたりで走り続けて
きた

そのために
わたしは無理ばかり
言つて 何ひとつ
妻らしいことは
できませんでした

それでもあなたは
文句ひとつ言わず
伊能屋のために働いて
くださいました

ほんとうに
感謝しています

いやいや
感謝しているのは
わたしの方だ…

商人の道を閉ざされ
悩んでいたわたしに
道を開いてくれたのは
お達さんだった

